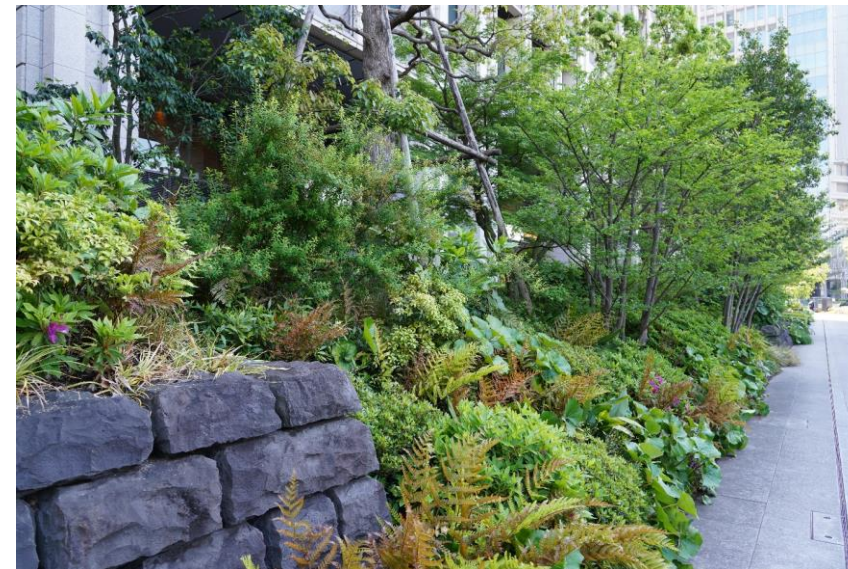


場所・面積 東京都千代田区、0.5ha

管理目的 人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」の創出。
就業者・来街者の交流や憩い、皇居からつながる緑のネットワークの引き込む起点としての生息環境保全。

サイト概要 「ホトリア」は、皇居外苑濠を意味する「ほとり」と、場所を表す名詞の語尾「ia」が由来であり、「お濠のほとりに豊かな空間を」という意味が込められています。皇居外苑濠の東側には、環境共生型の緑地広場「ホトリア広場」が誕生し、皇居外苑濠の豊かな自然と歴史的景観との調和を生み出しています。皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種を主体に構成され、緩やかな傾斜と広場を縦断する水景施設は、人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」を創出し、訪れた人に、包み込まれるような感覚を与えてくれます。さらに、事前に生態調査を実施し、皇居周辺に生息する生きものを誘致すべく、生きものの住みかになるような工夫が凝らされています。

また、ホトリア広場では、エリアマネジメント団体（一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会、以下『エコッツェリア協会』）や専門家と連携し、生物調査や環境教育・定期的なネイチャープログラムを実施しているほか、行政やNPO、専門家と連携し、皇居外苑濠の生物多様性の保全や復元に取り組んでいます。（濠プロジェクト）



土地利用の変遷

江戸城本丸の正門「大手門」の正面に位置しています。江戸期は武家屋敷、明治以降は官庁街、オフィスビルとして利用された後、ビルの建て直しを経て現在に至ります。

サイト周辺の環境

皇居東御苑の出入口である大手門至近のオフィス街に位置しています。立地特性から、大手町地区に緑のネットワークを皇居東側に引き込む起点としての役割を担うものと考えられます。

アピールポイント

- ・お濠に隣接し、皇居との連続性を意識しながら創出された人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」となっています。
- ・周辺の就業者、来街者、近隣保育園なども日常的に利用。憩いやレクリエーションの場として活用されているほか、働く場としての活用もされています。
- ・エコツェリア協会や専門家と連携し、生物調査や環境教育・定期的なネイチャープログラム（大丸有シゼンノコパン）を実施しています。
- ・行政やNPO、専門家と連携し、皇居外苑濠の生物多様性の保全や復元に取り組んでいます。（濠プロジェクト）



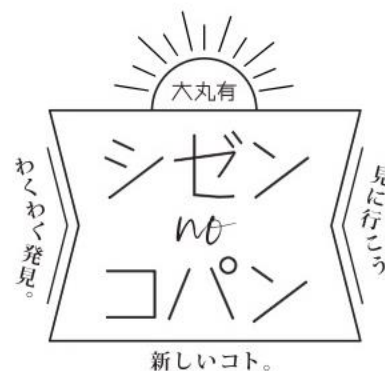
ホトリア広場



飛来したベニイトトンボ



調査結果の情報発信



ネイチャープログラムの実施



お濠で生きもの採取

お濠の埋土種子実験

ホトリア広場の水辺で域外保全している水草

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

「ホトリア」は、皇居外苑濠を意味する「ほとり」と、場所を表す名詞の語尾「ia」が由来であり、「お濠のほとりに豊かな空間を」という意味が込められており、皇居外苑濠の豊かな自然と歴史的景観との調和を生み出しています。皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種を主体に構成され、緩やかな傾斜と広場を縦断する水景施設は、人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」を創出し、訪れた人に、包み込まれるような感覚を与えてくれます。さらに、事前に生態調査を実施し、皇居周辺に生息する生きものを誘致すべく、生きものの住みかになるような工夫が凝らされています。

【主な植生】

皇居の二の丸雑木林との連続性を意識したクヌギ、コナラ、イロハモミジ等を植栽。

【確認された主な動植物】

植物：クヌギ、コナラ、ケヤキ、トウカエデ（実生）、オニタビラコ

鳥類：シジュウカラ、メジロ、ヒヨドリ

昆虫類：ナツアカネ、コノシメトンボ、アオモンイトトンボ※、オオシオカラトンボ※、アオスジアゲハ、ナミテントウ

※幼虫、羽化殻、羽化直後個体の確認があり、定着していると考えられる。

クモ類：マルゴミグモ



写真の撮影年月：2023.4.19

写真の説明：ホトリア広場の緑地帯

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

皇居および皇居外苑濠との連続性に配慮して設計されたホトリア広場では特にトンボ類・鳥類にとっても重要な生息環境となっています。また、特に水辺では、環境省・公益財団法人日本自然保護協会等と連携して皇居外苑濠の生物多様性の保全や復元に取り組む「濠プロジェクト」を実施し、皇居外苑濠の泥を採取、再生事業などを行っています。

【確認された希少種】

▶ 導入したものではない種

・ハグロトンボ（成体、東京都RL区部（VU））

※千代田区における確実な記録は北の丸公園とホトリア広場のみ

・モノサシトンボ（幼虫・羽化殻、羽化直後成体、東京都RL区部（NT））

※ベニイトトンボ（成虫、環境省RDB（NT）、東京都RL区部（VU））2021年度は確認されたが、2022年度の確認はなし

・ヤマガラ（成体、東京都RL区部（VU））

・イソヒヨドリ（成体、東京都RL区部（VU））

・オオミノガ（幼虫、東京都RL区部（NT））

■ 導入（再生）種：皇居外濠の泥より水草（環境省RDB及び東京都RL記載の維管束植物、藻類）が再生（2018年夏）し、7種については継続的な生育が確認されています。うち4種は現在外濠での生育が確認されていません。



写真の撮影年月：2021.7.15

写真の説明：ベニイトトンボ(下) とモノサシトンボ（上）

生物多様性の価値

価値（9）既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場

【場の概況】

「ホトリア」は、皇居外苑濠を意味する「ほとり」と、場所を表す名詞の語尾「ia」が由来であり、「お濠のほとりに豊かな空間を」という意味が込められており、皇居外苑濠の豊かな自然と歴史的景観との調和を生み出しています。皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種を主体に構成されています。さらに、事前に生態調査を実施し、皇居周辺に生息する生きものを誘致すべく、特に皇居に隣接する西側エリアを中心に生きものの住みかになるような工夫が凝らされています。

【主な植生】

皇居の二の丸雑木林との連続性を意識したクヌギ、コナラ、イロハモミジ等を植栽。

【隣接・接続する保護地域等】

皇居および皇居外苑濠

【緩衝機能や連続性・連結性の機能】

- ・ 皇居との連続性を意識設計した空間づくりによる指標種の誘致
（事前調査による21種の指標種のうちシジュウカラ、ヤマガラ、クロアゲハ、シオカラトンボ等14種を確認）
- ・ 濠プロジェクトを通じた皇居外苑濠の生物の保全※詳細は価値（6）にて記載



写真の撮影年月：2023.4.19

写真の説明：バードパスと多孔質の石積み

（皇居の石垣から連なる景観の連続性と生物の生息空間の創出）



写真の撮影年月：2020. 12.23

写真の説明：バードパスに誘致されたヤマガラ（指標種）

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ■管理目標（地上） ・新植された植物群が根を十分に活着させ、健全に育成できるよう、灌水等の養生管理を行います。さらに初期の養生管理によって十分に根が活着した植物群に、緑地としての機能だけでなく、生物多様性に配慮した生育管理を行い日常管理へとつなげていきます。 ・植物に適した土壌を作ることにより、植物自体の抵抗力を高め、本来の緑地の機能を保持させます。化学合成肥料の使用は極力控え、生物多様性に配慮します。 ・除草回数は1年に3回を想定しつつも、それぞれの箇所につき、生物多様性の観点から状況を判断し適宜行います。 ・週に1回全体を巡回点検し、植物の生育状況、雑草の発生状況、支柱点検、土壌の乾湿状況等の観察、簡易モニタリングを実施します。 ■管理目標（水景） ・導入された水草や生きものが「濠プロジェクト」により保全・復元された種であることを考慮し、適切な管理を行います。水草の健全な育成のため、アオミドロ等除去作業を主とした管理を行い、また外部からの移入種による影響を最低限に抑えるよう注意します。	①生物多様性調査 【モニタリング対象】 植物、ほ乳類、鳥類、両生類・爬虫類 【モニタリング場所】ホトリア広場および周辺地域 【モニタリング手法】目視による種の記録 【実施時期及び頻度】原則年4回を毎年実施 （今後、年度毎のテーマ設定等継続実施を検討） 【実施体制】 エリアの生物多様性の知見を持つエコツェリア協会と連携し、共同で専門の調査会社に依頼 ②濠プロジェクト調査 【モニタリング対象】トンボ類、水草等 【モニタリング場所】ホトリア広場の水辺 【モニタリング手法】採取・目視による種の記録 【実施時期及び頻度】月1回、採取・目視調査を実施 【実施体制】 公益財団法人日本自然保護協会に依頼 ③簡易モニタリング 毎週1回の巡回点検の際に、モニタリングチェックシートを活用し、あらかじめ設定した鳥類、昆虫類、爬虫類、草本類の調査対象種の有無を確認